

重点目標:一人一人の心の動きを大切にする保育をめざして
～生活する姿から子どもの心の世界を推測する～

教育保育目標 自分が好き・人が好き・遊ぶのが大好きな子どもを育む

項目	重点項目	現状 (◎△)	理由・根拠	達成目標 具体的施策	中間振り返り	年度末評価		学校関係 者評価
						現状 (◎△)	成果と課題・改善策	
学びの場である保育の充実	[自分が好き] 「愛情」を基盤とした自尊感情の構築	○	乳幼児期は子どもにとって人生の始まりであり一番大切な時期である。たくさん愛され、自分は無条件に価値ある存在であることを強く感じることで、教育目標である『自分が好き』な子どもを育みたい。	・「一人一人の子どもに愛情豊かに関わり、全ての子どもが明るく元気に園生活を送れるように支えている。」のアンケート項目で肯定的回答80%越になる。 ・クラス・学年・乳児・幼児会議において、一人一人の子どもについて肯定的に共有する。	・クラス・学年・乳児・幼児・各環境担当会議において、子どもの様子を伝え合っている。その中で、クラス担任が知らない姿を共有することができ、子どもを肯定的に見ることに繋がっている。 ・各保育室やプレイルームに子どもの遊びの写真を掲示することも、子どもの姿の共有に繋がった。	○	(成果と課題) アンケート結果は肯定的な回答が99%以上であった。各種会議の他にも、毎学期ごとの職員の語り合いや、日々の会話の中で肯定的に子どもの姿を伝え合うことができた。 (改善策) 短時間勤務の職員とも子どもの姿を伝え合える方法を考える。	愛情豊かに育った子どもは自分が好きになると思う。
	[人が好き] ちがいを認め合える仲間づくり	○	乳幼児期にたくさんの人と出会い、スキンシップや対話、関わりを十分に経験し、そこから人と一緒にいる心地よさ、安心感を感じる。人を信頼する心や思いやりの心が養われていく、そんな『人が大好きな子どもを育む』	・「お子様は、友達や保育者と関わる中で、人に対する信頼感や一緒にいる心地よさを感じている」のアンケート項目で肯定的な回答が100%になる。 ・話し合いや会議等で子どもの姿を共有する。遊びの場を自由に選択できる保育環境を整える。異年齢交流をする機会を作る。	・月一回の会議の後で、遊びのチームに分かれて、子どもの遊びの姿を読み取り共有している。 ・1学期は異年齢の保育室に遊びに行くなどの交流をしていた。夏季中は、幼児3学年が一緒に過ごし、2学期も引き続き幼児3学年が遊びを選んで一緒に遊ぶ環境と時間を設け、異年齢での関わり場が増えている。	○	(成果と課題) アンケート結果は肯定的な回答が99%以上であった。園庭では、異年齢での遊びの時間を作り、学年を超えて連携しながら進めることが出来た。異年齢の関わりの中で自分との違いを感じ、年下を思いやる姿が見られた。 (改善策) 他学年の部屋が遠く、室内での遊びは見えにくい為、室内での交流を深める方法を考える。	子ども達が主体となって学んでいる。かわりが自然と生まれている。
	[遊ぶのが好き] 資質・能力を育む 保育の推進	○	乳幼児期に自分の身近にある物・事・事象にふれ、心をときめかせ、興味関心、好奇心を持ち、意欲的に夢中になって遊ぶ、そんな『遊ぶのが大好きな子どもを育む』	・「こども園は子どもの発達や興味関心に応じた保育を行い、子どもの意欲や主体性が育まれるように努めている。」アンケート項目で肯定的な回答が90%以上である。 ・保育環境を4つに分類し担当を設け、1年を通して質の向上に努める。	・月一回、保育環境を4つに分類し、各担当に分かれて子ども達の遊びの姿の読み取りを共有し、必要な環境を話し合い、多角的な視点を活かした環境構成を行っている。 ・職員各自が責任をもって環境の再構成を実践する事で、継続して保育の質の向上を目指している。	○	(成果と課題) アンケート結果は肯定的な回答が99%以上であった。環境構成では、月1回担当職員同士が子ども達の姿を共有し、継続して環境の再構成を行う事で、子どもの思いに沿った環境の中で、子ども達が夢中になって遊ぶ姿が見られた。 (改善策) 各担当で話し合った環境構成を全職員が共有できる時間の確保、もしくは方法を考える。	乳幼児期の遊びの経験はその後に影響すると思うので大事にしてほしい。
保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	○	教育保育目標達成に向け、職員1人1人の保育の質の向上を目指す。	・「こども園は、子どものやってみよう気持ちに寄り添う教育保育を実践している」のアンケート項目で肯定的回答90%越になる。 ・講師招聘を年2回程度行い、その中で公開保育を実施する。 ・子どもの姿を読み取る語り合いを、月1回以上・保育の語り合いを年3回程度実施する。	・園内研修会では、講師招聘の公開保育を10月、11月の2回行った。園内外問わず、職員同士で保育に関して語り合った。 ・子どもの姿を読み取る語り合いは毎月1回継続して行い、環境の再構成に活かしている。	○	(成果と課題) 保護者アンケートの結果で肯定的な意見が99%以上であった。年2回の公開保育では、講師や他園の方々からご意見を頂き、自園課題に活かした。公開保育の他に講師招聘の研修会を1回開催し、地域の小学校や就学前施設の職員同士で集まり学びの機会を得た。 (改善策) 語り合いの会の内容に関しては、年度の初めに再検討する。	回数が多く大変だと思うが継続して欲しい。小学校と合同で出来たら良い。
	チーム保育の推進	○	職員集団が一丸となって、チームで教育保育目標達成の実現を目指す。 その為に、職員が大切にすべきことを共有し、チームで助け合い、補い合い、高め合える組織・チーム作りを行う。	・学年、園全体等各会議を計画的に実施し共有を仕組化する。 ・時差勤務や異年齢交流等でクラスや学年の垣根を越え、職員皆で子どもの育ちを考える。 ・クラスや学年担任だけでなく、朝夕職員、事務、調理、保健、医療ケア、用務の職員全てが子どもの姿を共有し見守る。	・幼児会議や乳児会議、職員会議などを定期的に行い、学年の垣根を越えて子どもの様子を共有し合っている。 ・時差勤務等で気になった子どもの姿や気づいたことなど、何かあれば伝達できる体制をとり、その都度子どもの姿に合わせて環境を変えようとしている。	○	(成果と課題) 会議等で保育目標の実現を確かめながら保育を計画し、学年の垣根を越えて子どもの育ちを考えた異年齢での関わりがもてるように園庭の環境構成を行った。 (改善策) 学年によって分かれている部屋構成の中で、異年齢の関わりを増やす方法を検討していく。	組織力の重要性を感じる。互いを思いやる気持ちが育っている。
	小学校教育との接続	○	教育保育目標達成に向け、小学校へと継続して子どもの育ちを理解し、10の姿を共有し合いながら、なめらかな小学校接続を目指す。その為に、互いの取り組みを知り、職員間のつながりを大切にしている。	・年間計画を元に小学校の校庭やプール、図書室等に行ったり交流したりする日程を設ける。 ・アプローチカリキュラムをもとに小学校接続を見据えた保育を職員間で共有する。保護者配信に10の姿を意識し盛り込んでいく。	・小学校プールの利用、校庭を定期的に利用している。今後は中庭や図書室、1年生との秋祭りでの交流を予定している。 ・8月に1年生の授業を参観、9月にはオープンスクールに参加し、気付いたことを伝えることができた。またお互いの研修に参加している。	○	(成果と課題) 年間計画をもとに、小学校の施設利用を定期的に行った。園児と1年生との交流を継続して行うことができた。保護者アンケートでは「満足している」「おおむね満足している」の項目合わせて95%となった。 (改善策) 年間計画の中に交流についての打ち合わせの予定日を入れる。	積極的に進められることを願う。
開かれ信頼される園づくり	職員の危機管理能力の向上	○	安心安全な園づくりのために、報告・連絡・相談機能を働かせ、一人一人の危機意識を高める。	・「こども園は、避難訓練や交通安全指導等、乳幼児の安全に関する適切な指導を行っている」のアンケート項目で肯定的な回答が90%以上になる。 ・園内で起こりうるリスクを共通理解し、マニュアルを見直すことで、リスクの再発を防ぐ。 ・リスクマネジメント会議を開き、園内及び他園のリスクを検証し、自園リスクの軽減に繋げていく。	・毎月様々な事態を想定し避難訓練を行っている。11月には5歳児を対象に交通安全教室を行う。 ・アクシデントレポートは事案全て記入し、共有している。リスク発生時は迅速に再発防止策を行っている。 ・職員会議で毎月リスク発生時の対応について共通理解をしている。 ・毎月リスク会議を行い、重要事案について話し合っている。また他園で起きた重要事案が自園でも起こらないよう、会議や書面で通達・周知している。	◎	(成果と課題) アンケート結果は肯定的な回答が99%以上であった。不審者訓練では昨年同様警察の指導の下訓練を行い、具体的な対応について周知することが出来た。自園のリスクだけでなく他園リスクにおいても会議等で共有することで、個々の危機意識が向上している。また、一度起きたリスクが再発することのないよう、会議や職員ノートを利用し、再発防止策を周知した。 (改善策) 起きたリスクについての改善策を全員がきちんと周知し、実行できるように職員ノートに記載するなど徹底したい。	幼い子どもの訓練は大変だろうがきめ細やかな配慮のもと大事にしてほしい。
	園情報の積極的な発信	○	保育の可視化に努め、園教育保育への理解と関心を高められるようにする。	・「こども園は園情報・教育保育内容をアプリ(icuco)やホームページなどを通じて適宜保護者に伝えている」のアンケート項目で肯定的な回答が90%以上になる。 ・月1回のHP更新、アプリ(icuco)を使用した写真や動画の配信(幼児は週1回クラスや学年の姿、2か月に1回子どもの姿、乳児は月1回子どもの姿(写真)定期的な配信(動画))などに取り組む。	・各クラスの担任が月にHP作成を担当し、情報発信している。また、クラスや学年、幼児や乳児便りを月に一回作成して、季節毎の子ども達の遊びの姿を10の姿を通して伝えている。2か月に一回、こども園での遊びの様子を具体的に知らせるために、ICUCOで写真入りのコメントを一人ひとり個別に配信している。	◎	(成果と課題) アンケート結果は肯定的な回答が92%以上あった。学年ごとの子どもの姿や一人ひとりの写真付きコメントを発信している。また、にじいろ広場やさくらっこ広場などの様子もHPやお便りなどで発信している。今後も保護者への教育保育の内容の理解を深められるよう、また拠点園として、にじいろ広場の参加率のさらなる向上に繋がるようにしていく。 (改善策) 10の姿など教育的な発信内容を保護者に伝わりやすくするために、引き続き写真や動画を使い視覚的に発信しながら、動画の活用方法を工夫して、子どもの姿がより具体的に伝わるようにしていく。	時折見えています。保護者の理解度も色々でしょうが頑張ってください。
	地域交流 子育て支援	○	地域のセンター的役割を果たすため、憩いの場となるよう場の提供や寄り添う関わりを実践する。	・年9回未就園児親子対象に園庭開放及びふれあい遊びや絵本の読み聞かせを行う。広場の案内をむくむくルームでの掲示を依頼し、周知を広める。 ・在園児に向け、毎月預かり保育及び園庭開放・育児相談を行う。	・むくむくルームの方と連携し、案内掲示や声掛けをし保護者への周知が広がっている。毎回新規の親子の参加も増えている。 ・積極的に保護者への声掛けを行うことで、保護者の方から悩みや相談を聞く機会も増えてきている。	◎	(成果と課題) アンケート項目で98%以上の肯定的な回答を得ることができた。未就園児対象の会は年間6回延べ172人利用があった。園庭開放は月平均217人以上、育児相談は月24件以上の利用がある。 (改善策) 今後も、親子が安心して子育てを行っていただけるよう、遊べる場を提供したり、育児相談を行う等、親子に寄り添う支援を行っていく。	未就園児にとって貴重な経験だと思う。
関係者評価総括			・職員が元気で楽しそう。子ども達への声掛け支援がとてすてきだと感じる。子ども達にとって豊かな環境を日々整えておられる事がすごいと思う。					
次年度に向けた重点的な改善点			・0～5歳児の連続した育ちと小学校以降の学びにつながる子どもの主体性の育成に努め実践していく。					